

STORAGE STRUCTURE OF VEHICULAR SEAT

Patent Number: JP10119613
Publication date: 1998-05-12
Inventor(s): ODAGAKI KUNIMICHI
Applicant(s): HONDA MOTOR CO LTD
Requested Patent: ☐ JP10119613
Application Number: JP19960274817 19961017
Priority Number(s):
IPC Classification: B60N2/36
EC Classification:
Equivalents: JP3278134B2

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To enable an effective space for a cargo platform to be secured in such a state as having a seat stored in seat storing part, as well as securing an effective space below a seat part.
SOLUTION: Such components are provided as a bracket 34 fixed to a sealing part 24, a storing part 38 provided on a side lining 36 inside of a cabin 14 and a support member 40 arranged in this storing part 38. The bracket 34 is provided with an extending part 42 extending outward in the shaft lateral direction from the end part of the seating part 24 and a turning motion part 44 in such a condition as being integrally provided on one end part of this extending part 42 and also in such a condition that a seating part 24 is maintained in its posture capable of making seating action, extends downward and being turningly and rotatably supported on a support member 40.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-119613

(43) 公開日 平成10年(1998) 5月12日

(51) Int.Cl.⁶

B 6 0 N 2/36

識別記号

F I

B 6 0 N 2/36

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平8-274817

(22) 出願日 平成 8 年(1996)10月17日

(71) 出願人 000005326

本田技研工業株式会社

東京都港区南青山二丁目 1 番 1 号

(72) 発明者 小田垣 邦道

埼玉県和光市中央 1 丁目 4 番 1 号 株式会

社本田技術研究所内

(74) 代理人 弁理士 千葉 剛宏 (外 1 名)

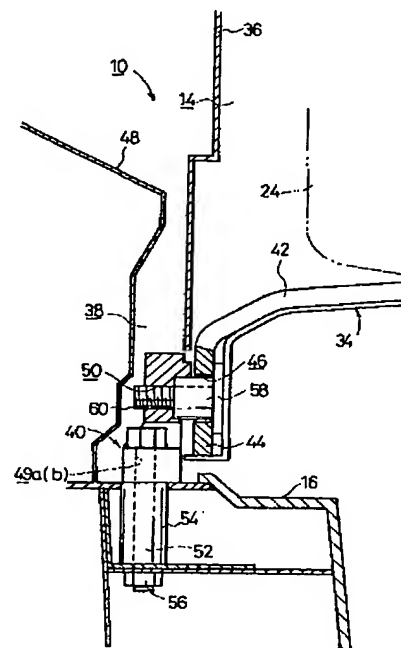
(54) 【発明の名称】 車両用シートの収納構造

(57) 【要約】

【課題】 着座部の下方に有効なスペースを確保するとともに、シートがシート収納部に収納された状態において、有効な荷台用スペースを設けることを可能にする。

【解決手段】 着座部 2 4 に固定されるブラケット 3 4 と、車室 1 4 内のサイドライニング 3 6 に設けられる收容部 3 8 と、この收容部 3 8 に配設される支持部材 4 0 とを備える。ブラケット 3 4 は、着座部 2 4 の端部より車幅方向外方に延在する延出部 4 2 と、この延出部 4 2 の一端部に一体的に設けられるとともに、前記着座部 2 4 が着座可能な姿勢に維持された状態において、下方に延在して支持部材 4 0 に回動自在に支持される回動部 4 4 とを有する。

FIG. 4



【特許請求の範囲】

【請求項1】着座部と前記着座部側に折り畳み自在な背もたれ部とを有し、折り畳まれた状態でフロアに形成されたシート収納部に収納される車両用シートの収納構造であって、

前記着座部に固定されるブラケットと、

車室内のサイドライニングに設けられる収容部と、

前記収容部に配設される支持部材と、

を備え、

前記ブラケットは、前記着座部の端部より車幅方向外方に延在する延出部と、

前記延出部の端部に一体的に設けられるとともに、前記着座部が着座可能な姿勢に維持される際、下方に延在して前記支持部材に回動自在に支持される回動部と、を有することを特徴とする車両用シートの収納構造。

【請求項2】請求項1記載の収納構造において、前記支持部材は、前記車両側に固定される固定側レール部材と、

前記固定側レール部材に沿って移動する可動側レール部材と、

前記可動側レール部材に配置され、前記回動部を回動自在な支点部材と、

を備えることを特徴とする車両用シートの収納構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、着座部と前記着座部側に折り畳み自在な背もたれ部とを有し、折り畳まれた状態でフロアに形成されたシート収納部に収納される車両用シートの収納構造に関する。

【0002】

【従来の技術】最近、乗用車として、ワゴンやRV等の多様性を有する自動車が普及しつつある。この種の車両では、2列目以降のリヤシートを折り畳むことにより、フロアと一体となった広いスペースを有する荷物室を構成するようにしたものが知られている。

【0003】例えば、実開平5-40029号公報に開示されているように、乗用車のフロアに収納凹部を設け、この収納凹部の近傍にシートを配置し、該シートを構成するシートバック（背もたれ部）をシートクッション（着座部）側に折り畳んだ状態で前記シートクッションを揺動させて前記収納凹部内に収納するとともに、前記シートクッションの底面とフロアとが面一になるように構成されたシート収納構造が提案されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】ところで、この種のシート収納構造では、図12に示すように、着座部1に背もたれ部2を折り畳んだ状態で、シート3がヒンジポイント4を支点にして後方に揺動されることにより、このシート3が凹部5に収納されている。この場合、シート3を凹部5内に収納した状態で、ヒンジ部分が荷室とし

て構成されている床面6上に突出することがないように、ヒンジポイント4をこの床面6に可及的に近接して設定する必要がある。

【0005】しかしながら、ヒンジポイント4が床面6に近接しているため、着座部1が着座可能な姿勢に維持された状態においては、この着座部1と床面6との間にほとんど隙間がない。これにより、着座部1の下に長尺物等を収容するためのスペースを確保することができないという問題が指摘されている。

【0006】また、着座部1が床面6に近接しており、搭乗者に快適な着座姿勢を与えるためには、床面6に段差部7を設ける必要がある。従って、床面6全体の製造工程が相当に煩雑化してしまうという問題もある。

【0007】本発明は、この種の問題を解決するものであり、着座部の下方に有効なスペースを確保するとともに、シートがシート収納部に収納された状態で有効な荷台用スペースを設けることが可能な車両用シートの収納構造を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】前記の課題を解決するために、本発明は、着座部に固定されるブラケットと、車室内のサイドライニングに設けられた収容部に配設される支持部材とを備え、このブラケットを構成する延出部が前記着座部の端部から車幅方向に延在し、さらにこの延出部に一体的に設けられた回動部が前記支持部材に回動自在に支持されている。このため、シートが折り畳まれてシート収納部に収納された状態では、ヒンジ部分である支持部材と回動部との連結部分がサイドライニングの収容部に配置されており、このヒンジ部分が荷室側に突出することがない。

【0009】しかも、支持部材がサイドライニングの収容部に配設されるため、ブラケットの回動支点を高く設定することができる。これにより、着座可能な姿勢に維持された着座部の下方に有効なスペースを設けることが可能になるとともに、搭乗者の足置き用スペースを確保することができ、床面に段差部等を設ける必要がない。

【0010】また、支持部材が可動側レール部材と固定側レール部材とを備えており、シートが車長方向に進退可能に構成される。従って、シート自体の利便性が有効に向上する。

【0011】

【発明の実施の形態】図1は、本発明の第1の実施形態に係る収納構造10が採用される車両12の概略側面図である。この車両12の車室14内には、フロア16上に車長方向後方（矢印A方向）に向かってフロントシート18、第1リヤシート20および第2リヤシート22が3列に設けられており、この3列目の第2リヤシート22に、第1の実施形態に係る収納構造10が採用される。

【0012】図1および図2に示すように、第2リヤシ

ート22は、着座部24と背もたれ部26とこの背もたれ部26の上縁に着脱自在なヘッドレスト28とを備える。背もたれ部26は、リクライニング機構（図示せず）を介し、軸30を支点にして着座部24側に折り畳み可能でありかつ後方に傾動自在に構成されている。第2リヤシート22の後方には、折り畳まれたこの第2リヤシート22を収納するためのシート収納部32が設けられている。

【0013】図3～図6に示すように、収納構造10は、着座部24に固定されるブラケット34と、車室14内のサイドライニング36に設けられる収容部38と、この収容部38に配設される支持部材40とを備える。

【0014】ブラケット34は、止め具（図示せず）を介して着座部24の底面24aに固着されており、この着座部24の端部から車幅方向（矢印B方向）外方に延在する延出部42と、この延出部42の端部に一体的に設けられるとともに、前記着座部24が着座可能な姿勢に維持される際、下方に延在して支持部材40に回動自在に支持される回動部44とを有する。この回動部44には、車幅方向に指向して孔部46が貫通形成されている。

【0015】サイドライニング36は、フロア16の上方で終端しており、リヤホイールハウス48と前記フロア16と前記サイドライニング36の終端部との間に収容部38が形成される。

【0016】図4および図5に示すように、支持部材40は、屈曲形状を有しており、鉛直方向に貫通してボルト挿通用の孔部49a、49bが設けられる一方、車幅方向に指向してねじ孔50が形成される。孔部49a、49bに挿通されたボルト52の先端側は、フロア16を貫通してカラー54内に挿入され、その先端部にナット56が螺合されることにより、支持部材40が前記フロア16上に固定される。

【0017】ブラケット34の回動部44に設けられた孔部46にスリーブ58が挿入され、このスリーブ58内に挿入された止めねじ60の先端が、支持部材40のねじ孔50に螺合する。スリーブ58は、ブラケット34の揺動支点Oを構成している。

【0018】図3に示すように、着座部24内には、車両12の車幅方向に延在して板状の補強部材62が配設されるとともに、パイプ状のフレーム部材64が周回して配置されている。フレーム部材64の車長方向後方両端部に、それぞれ収納構造10を構成するブラケット34の端部が固着される一方、前記フレーム部材64の車長方向前方両端部には、着座部24を固定するための係止手段66が設けられる。

【0019】図3および図7に示すように、係止手段66は、車両12側に設けられるストライカ68に係脱自在なラッチ部材70を備える。ラッチ部材70は、スト

ライカ68に係合する爪部72とカム部材74に係合する山形状係止部76とを有し、軸78に介装されているコイルスプリング80を介して、図7中、常時、矢印方向に付勢されている。

【0020】カム部材74は、軸82に介装されたコイルスプリング84を介して、図7中、矢印方向に付勢されており、このカム部材74の端部にレバー部材86の一端に係合する。レバー部材86の他端には、駆動ワイヤ88の一端に係合する。この駆動ワイヤ88は、図3に示すように、着座部24の側部に沿って後方側に延在した後、この着座部24の後端部中央に回動自在に設けられているロック解除ノブ90に連結される。ロック解除ノブ90は、矢印D方向に回動されることにより、着座部24の両端側に配置されているカム部材74が、図7中、矢印とは逆方向に引張される。

【0021】このように構成される第1の実施形態に係る収納構造10の動作について、以下に説明する。

【0022】第2リヤシート22をシート収納部32に収納する際には、図2に示すように、先ず、背もたれ部26が、図示しないリクライニング機構を介して着座部24側に前倒しされる。その際、ヘッドレスト28を、予め背もたれ部26から離脱させておく。

【0023】次に、図3に示すように、ロック解除ノブ90が矢印D方向に回動され、このロック解除ノブ90に連結されているそれぞれの駆動ワイヤ88が引張される。このため、図7に示すように、駆動ワイヤ88を介してレバー部材86が矢印E方向に引張され、このレバー部材86に係合するカム部材74は、コイルスプリング84に抗して矢印とは逆方向に回動され、このカム部材74がラッチ部材70の係止部76から離脱する。これにより、ラッチ部材70は、コイルスプリング80の弾発作用下に爪部72をストライカ68に係合させた状態で矢印方向に回転し、係止手段66による着座部24の固定作用が解除される。

【0024】この状態で、背もたれ部26が折り畳まれた着座部24は、ブラケット34と支持部材40との揺動支点Oを中心にして後方側（図2および図5中、矢印F方向）に揺動される。従って、第2リヤシート22は、フロア16に設けられているシート収納部32内に収納され、着座部24の底面24aが前記フロア16と略面一になる。

【0025】この場合、第1の実施形態では、図3～図6に示すように、収納構造10を構成する支持部材40が、サイドライニング36に設けられた収容部38に対応してフロア16上に固定されるとともに、ブラケット34が、着座部24の端部から車幅方向外方に延在する延出部42を有し、この延出部42の端部に設けられた回動部44が前記支持部材40に回動自在に支持されている。

【0026】このため、第2リヤシート22がシート収

納部 32 に収納された状態で、フロア 16 から着座部 24 の底面 24a にわたって相当に広いスペースを確保することができるとともに、収納構造 10 を構成するヒンジ部分、すなわち、支持部材 40 および回動部 44 の連結部分が車室 14 内に突出することがない。従って、車室 14 内に、例えば、荷台用として平坦かつ広い床面を形成することが可能になる。

【0027】さらに、第 2 リヤシート 22 がシート収納部 32 に収納された状態で、収納構造 10 のヒンジ部分が車室 14 内に露呈することがないため、ブラケット 34 の揺動支点 O の位置をフロア 16 から比較的高い位置に設定することが可能になる。これにより、図 2 において、着座部 24 が着座可能な姿勢に維持された状態で

(二点鎖線参照)、この着座部 24 の底面 24a とフロア 16 との間にスペースを確保することができる。従って、着座部 24 の下方に、例えば長尺物を容易に収容することが可能になる。しかも、着座部 24 の高さがフロア 16 から高く設定されるため、搭乗者の足置き用としてこのフロア 16 に段状部を設ける必要がない。

【0028】このように、第 1 の実施形態では、第 2 リヤシート 22 をシート収納部 32 に収納することにより、フロア 16 から着座部 24 の底面 24a にわたって相当に広い荷台用スペースを確保できるとともに、着座姿勢を維持した状態の前記着座部 24 の下方にも、荷物用スペースが設けられる。このため、簡単な構成で、多機能を有する収納構造 10 を提供することができるとい

う効果が得られる。

【0029】次に、本発明の第 2 の実施形態に係る収納構造 100 について、以下に説明する。なお、第 1 の実施形態に係る収納構造 10 と同一の構成要素には、同一

の参照符号を付してその詳細な説明は省略する。

【0030】図 8 および図 9 に示すように、収納構造 100 は、車両 12 側に固定される一対の固定側レール部材 102 と、この固定側レール部材 102 に沿って車長方向後方 (矢印 A 方向) に移動する一対の可動側レール部材 104 と、前記可動側レール部材 104 に配置され、ブラケット 34 の回動部 44 を回動自在に支持する支点部材 106 とを備える。

【0031】図 9 に示すように、固定側レール部材 102 は、リヤホイールハウス 48 とフロア 16 とに支持される。固定側レール部材 102 と可動側レール部材 104 との間には、円弧状のスリーブ部材 108 と、このスリーブ部材 108 に形成された複数の孔部 110 に嵌合して前記固定側レール部材 102 と前記可動側レール部材 104 とに一体的に係合するボール 112 とを備えたリテーナ 114 が配設される。

【0032】サイドライニング 36 には、ブラケット 34 を構成する延出部 42 を収容部 38 に挿通させるための開口部 116 が車長方向に所定の長さを有して形成される。支点部材 106 は、ブラケット 34 の回動部 44

に嵌着されるスリーブ 118 を有し、このスリーブ 118 に止めねじ 120 が螺合して前記回動部 44 が可動側レール部材 104 に回動自在に支持される。

【0033】このような構成において、第 2 リヤシート 22 をシート収納部 32 に収納する際には、先ず、この第 2 リヤシート 22 が可動側レール部材 104 と一体的に車長方向後方 (矢印 A 方向) に移動され、このシート収納部 32 の縁近傍に支点部材 106 を位置決めして前記第 2 リヤシート 22 が配置される (図 10 および図 11 参照)。そこで、背もたれ部 26 が前倒しされた着座部 24 は、この可動側レール部材 104 に設けられた係止手段 66 による固定作用が解除された後、矢印 F 方向に揺動されてシート収納部 32 に収納される。

【0034】このため、第 2 の実施形態では、矢印 A 方向に位置調整可能な第 2 リヤシート 22 を、極めて簡単な構成でシート収納部 32 に容易かつ確実に収納することができる。しかも、フロア 16 から着座部 24 の底面 24a にわたり広いスペースを確保することができる等、第 1 の実施形態と同様の効果が得られる。

【0035】

【発明の効果】以上のように、本発明に係る車両用シートの収納構造では、着座部に固定されるブラケットがこの着座部の端部より車幅方向外方に延在する一方、前記ブラケットを回動自在に支持する支持部材がサイドライニングに設けられた収容部に配置されている。このため、折り畳まれたシートがシート収納部に収納された状態において、車室内に前記支持部材等が突出することがない。これにより、着座部の揺動支点位置を高く設定することができるとともに、この着座部の底面とフロアとの間に荷台用等のスペースを有効に確保することが可能になる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の第 1 の実施形態に係る収納構造が採用される車両の概略側面説明図である。

【図 2】前記収納構造の概略側面図である。

【図 3】前記収納構造の概略斜視説明図である。

【図 4】前記収納構造の一部断面説明図である。

【図 5】前記収納構造の一部斜視説明図である。

【図 6】前記収納構造の後方斜視図である。

【図 7】前記収納構造を構成する係止手段の斜視説明図である。

【図 8】本発明の第 2 の実施形態に係る収納構造の概略斜視説明図である。

【図 9】前記第 2 の実施形態に係る収納構造の一部断面説明図である。

【図 10】前記第 2 の実施形態に係る収納構造の後方斜視図である。

【図 11】前記第 2 の実施形態に係る収納構造の側面説明図である。

【図 12】従来技術に係る収納構造の側面説明図であ

8

38…収容

4 2 …延出

6 6 …係止

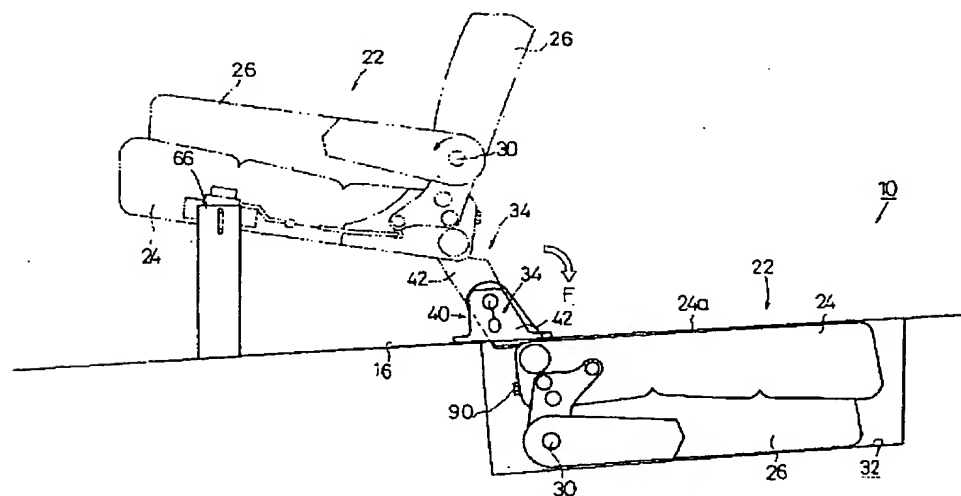
1 0 2...固

106...支

FIG. 1

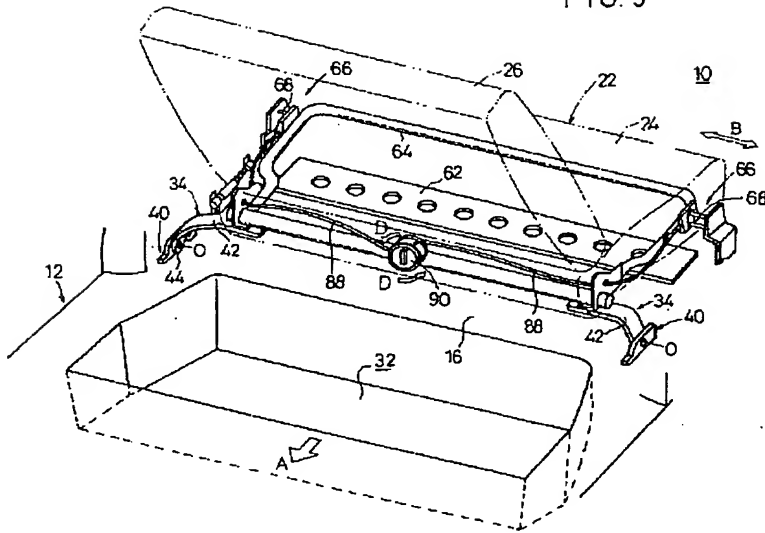


FIG. 2



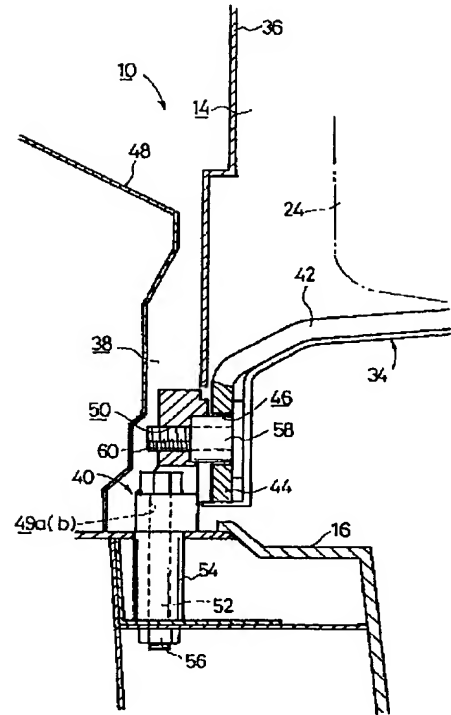
【図3】

FIG. 3



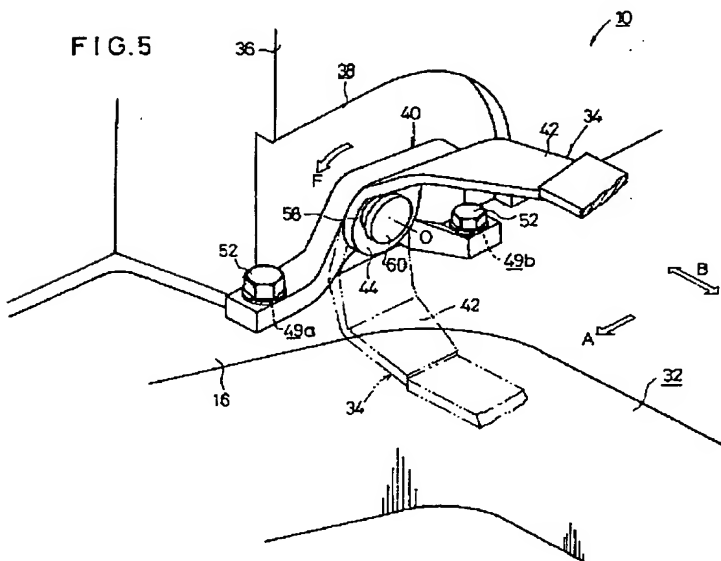
【図4】

FIG. 4



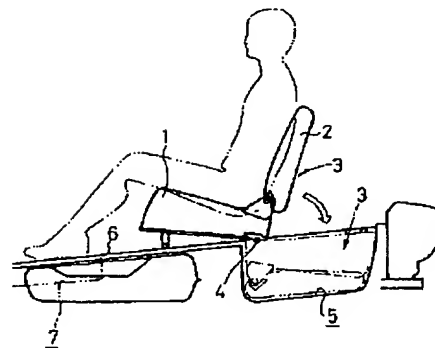
【図5】

FIG. 5



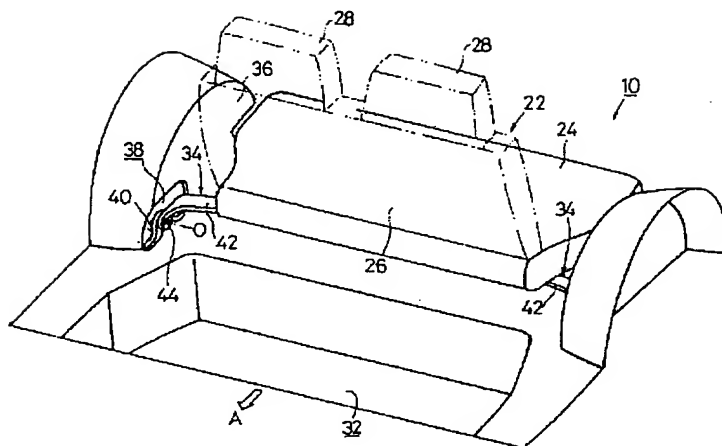
【図12】

FIG. 12



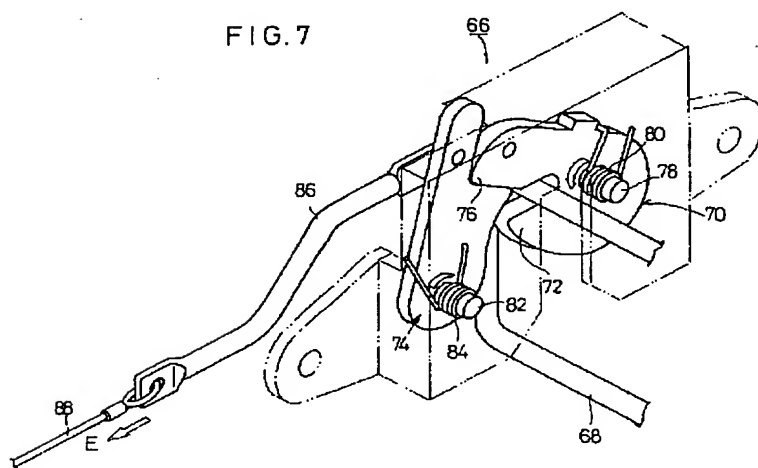
【図6】

FIG. 6

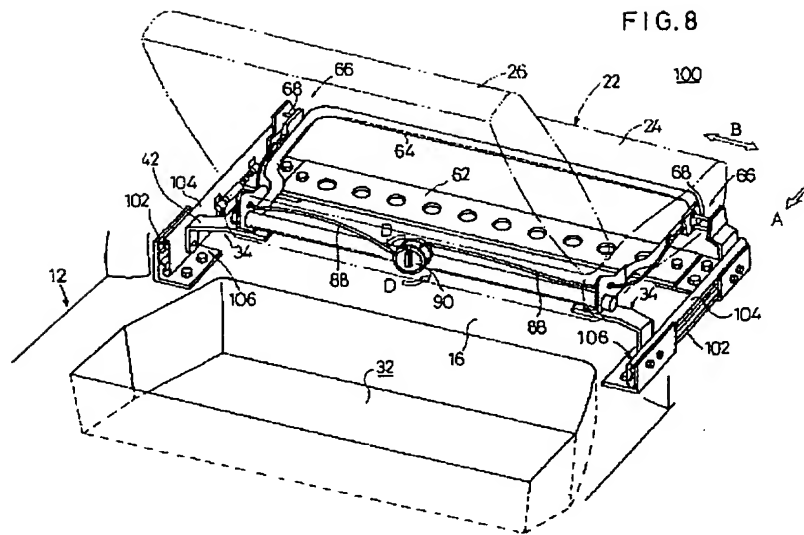


【図7】

FIG. 7

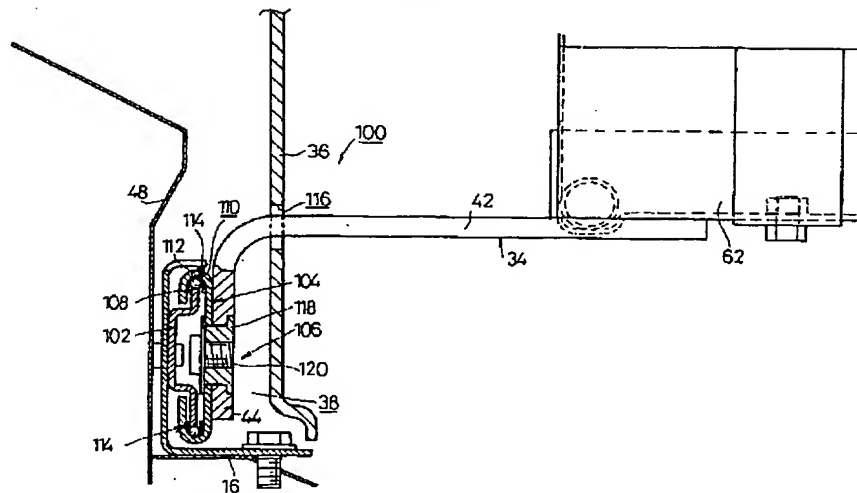


【図8】



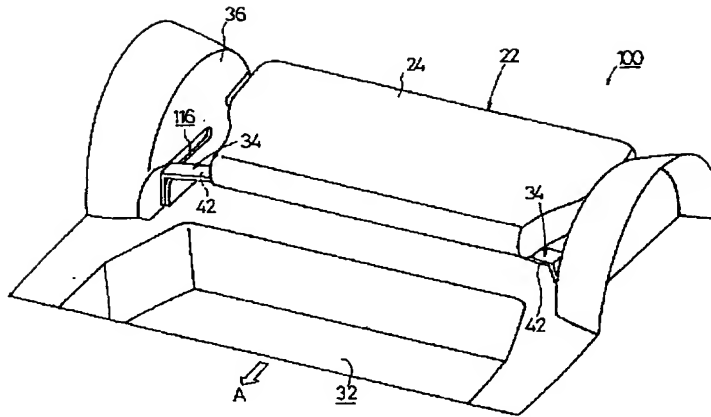
【図9】

FIG. 9



【図10】

FIG.10



【図11】

FIG.11

